

直観的、タッチパネル操作

設定温度に達すると自動で測定が開始

SOTAX

全自動崩壊試験機 DT50

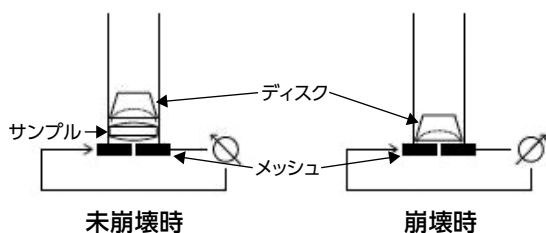
特徴

- エンドポイントを自動認識
- 短時間での温調が可能
- バスレス温調機能
- 子機により拡張が可能



エンドポイントの自動認識方法

SOTAX独自の技術を使用して、自動でエンドポイントを認識しています。崩壊試験が開始すると、**ディスクとサンプルがぶつかり合います**。未崩壊の場合、下記図のようにディスクはサンプルに妨げられ、メッシュに触れることはありません。しかし、完全にサンプルが崩壊すると、**ディスクはメッシュとくっつきます**。このメッシュとくっついた時点で、完全崩壊したと装置は認識します。これは1つのセルだけのものが完全崩壊しても測定は停止されず、すべてのセルのサンプルが崩壊したと認識した際に測定が停止します。



子機との拡張および簡易的なハンドリング



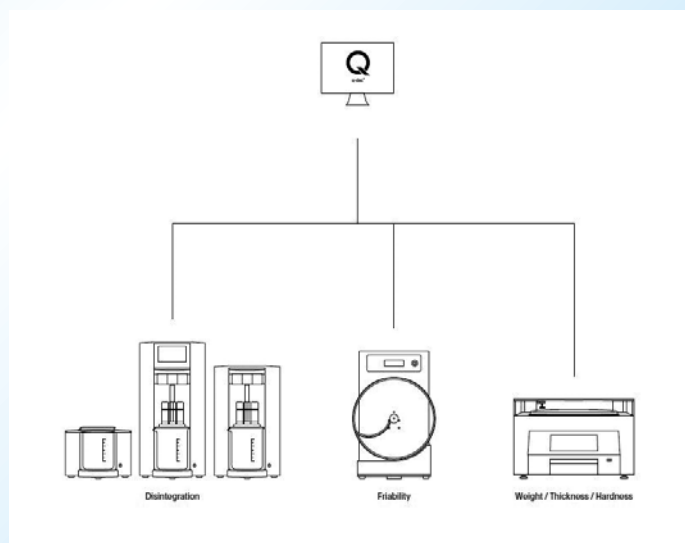
1台の親機につき、イーサネットケーブルによる接続で最大3台までの子機との接続が可能です。測定セルは容易に取り付け、取り外しをすることが可能です。測定終了後は、各セルの錠剤ごとの崩壊時間、そして崩壊時の温度帯などが自動で保存されます。

DT50 スペック

	DT50
セル数	3または6 ※ 使用するセル数に依存
ストローク回数	1分間あたり、30回
ストローク回数の精度	±1 回
ストロークの高さ	55 mm
ストロークの高さの精度	±2 mm
温度制御範囲	25 °C ~ 40 °C
温度制御の精度	±0.2 °C
温度センサー	IRセンサー
必要電源	100 ~ 240V ・ 50 ~ 60Hz
サイズ (W×H×D)	225 mm × 200 mm × 460 mm
重量	8 kg

※ 本装置は機械的・電気的安全性において、CEおよびEMCのガイドラインに完全に準拠しています。

SOTAX 社独自の “q-doc” ソフトウェアにより、 他の SOTAX 社装置の測定結果を一括管理が可能



“q-doc”ソフトウェアを使用することにより、崩壊試験の結果だけでなく、摩損度試験、溶出試験の結果などを1つの試験プロトコルとして、まとめることが可能です。これにより、大型錠剤の試験や再試験をできるだけ簡易に行うことが可能になります。測定データはすべて“q-doc”ソフトウェアに統合されますが、各装置の制御は個別に行われるようになっています。



お問い合わせ先：日本総代理店

Market Expansion
Services by
www.dksh.com



DKSHマーケットエクспанションサービスジャパン株式会社
テクノロジー事業部門 科学機器部
〒108-8360 東京都港区三田3-4-19
Phone : 03-5730-7610 FAX : 03-5730-7605
tp.labtyo@dksh.com www.dksh.jp